

元気 いっぱい!

赤崎小学校 たてわり遊び

1月中旬、赤崎小学校で児童が各学年混合のグループに分かれ、さまざまな遊びを楽しむ「たてわり遊び」が行われ、運動場や体育館で寒さに負けず元気よく体を動かす児童の姿がみられました。

体育館では、約30人の児童が最近なかなか目にすることがなくなった昔の遊びに挑戦しました。竹とんぼ、こま、お手玉など、いろいろな遊びがあるなかで、特に男の子に人気だったのが、筒状の竹で木の実を飛ばし、的に当てて楽しむ竹鉄砲。自然の素材を使用し、ひとつひとつ手作りされた竹鉄砲は、同じ力加減で飛ばしても、木の実が飛んでいく向きや距離はさまざま。最初はなかなか的に当たらなかった児童も、自分なりに工夫したり、上級生からの的を狙う際のコツを教わると、みるみるうちに上達し、木の実が命中する度に歓声があがっていました。

「たてわり遊び」を通じ、学年を超えての交流を満喫した児童。普段の授業とは一味違う、貴重なひとときとなったことでしょう。



▲竹の弾力で、的にめがけて木の実が勢いよく飛び出します。



▲上級生といっしょに、リズムに合わせてお手玉を楽しみました。



▲ピッチでの蔵川選手（昨年の試合）
（©KASHIWA REYSOL）

現在、サッカーJ1の柏レイソルで活躍する本市出身のJリーガー蔵川洋平さんが、プロサッカーの世界に飛び込んだのは、今から7年前のことでした。大学卒業と同時に入団した横浜Fマリノスは、当時、中村俊輔選手（現セルティック）など日本代表クラスのそうそうたるメンバーが名を連ねるJ1屈指の強豪チーム。

選手層も厚い上、自らは故障を抱えるなど、結局、出場機会に恵まれないまま、わずか1年でチームを去る結果となりました。「外に出てはじめてJ1の恵まれた環境に気づきました」と当時を振り返る蔵川さんが、再起をかけて移籍したのは、最も下のリーグである県リーグ所属のチームでした。「下のリーグだったんですけど上を目指しているチームでしたから、自分がそこまであげてやろうと、気持ちを高めていました」と語る蔵川さん。チームのキャプテンとして奮闘し、チームを県リーグから地域リーグ、更にその上のJFLにまで押し上げると、その活躍が認められ、昨年J2の柏レイソルから声がかかりました。そして迎えた昨シーズン、自身6年ぶりのJリーグ復帰を果たすと、主に中盤、ディフェンスのポジションで活躍。シーズン後半の大事な試合で決勝ゴールをあげるなど、レイソルのJ1昇格に貢献しました。

プロ8年目の今年、再びJ1の舞台に挑む蔵川さんは「チームのためにもフルシーズン戦えるよう準備をしなければ」と意気込みを語ってくれました。本市から誕生したJリーガーに、故郷からも熱いエールを送りたいですね。

夢 いっぱい!

「Jリーグを離れた経験が
プレーに対する意識を変えました」



本市出身のJリーガー
くらかわ ようへい
蔵川 洋平 さん
（柏レイソル所属）